

令和6年度北区政策提案協働事業報告書

令和7年11月

地域振興部地域振興課

目 次

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要	1
2. 募集事業の流れ	2
3. 事業募集について	3

第2章 実施事業の概要

1. 北区繋がり広がるプロジェクトアウトリーチ型支援事業	4
------------------------------	---

第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的	23
2. 事業の評価方法	23
3. 評価項目	23
4. 評価の流れ	23
5. 事業の実施主体による評価	24
6. 選定委員会による評価	26

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の地域課題の解決に向け、新たな視点で提案団体と区が取り組むことのできる事業です。

事業経費のうち区が負担する額は、年間300万円を上限とします。

この事業費は提案団体と区の双方の経費になり、その割合は提案団体と主管課とのヒアリングの際に検討します。

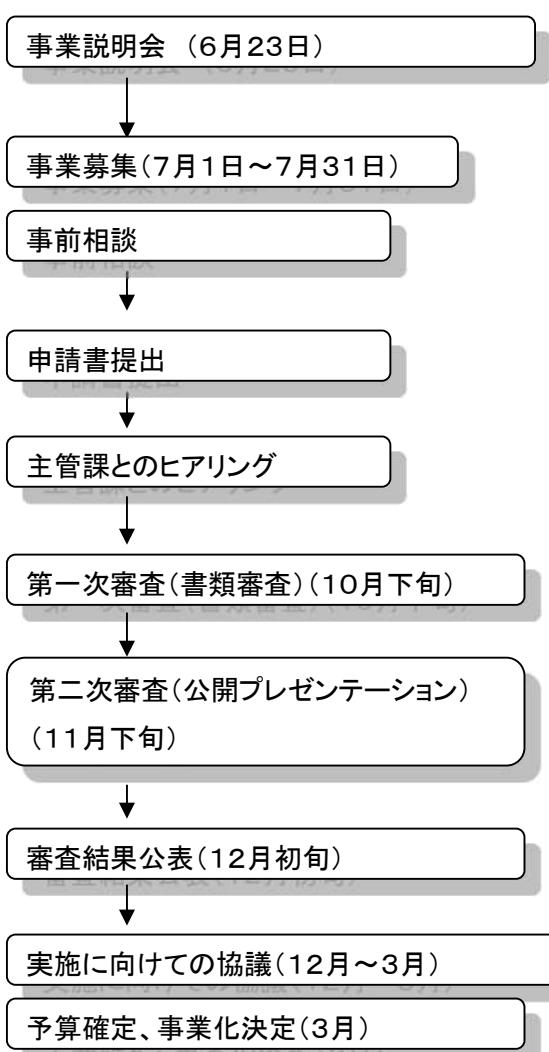
事業を継続する場合の区が負担する事業費については、2年間の事業の場合は計500万円、3年間の事業の場合は計650万円を上限とし、その範囲内で各年度間の区の負担額を決めます。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

令和5年度は、1事業の応募があり1事業が選定され、令和6年度に実施しました。

2. 募集事業の流れ

【令和5年度】



【事業説明会（自由参加）／事前相談】

事業概要や提出書類について説明します。

2日で3回実施しました。

また、事前相談では申請書の書き方などの相談を受け付けます。

【申請】

申請事業に関する書類（所定の書類）や団体に関する書類（名簿や規則など）を提出。

【ヒアリング】

主管課と事業化に向けて協議を行っていただきます。より実現性の高い事業となるよう事業内容の詳細を検討していきます。

【審査】

北区協働地域づくり推進事業選定委員会が対象事業を審査します。

【公表】

事業概要や団体名を公表します。

【実施に向けての協議】

事業実施に向けて、主管課を交えたワークショップ等を行い、具体的な協議を進めていきます。

【令和6年度】

協働事業開始（4月）

事業の経過報告

事業終了（令和6年3月）

【経過報告】

四半期ごとに事業執行状況報告書を提出。

【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

【令和7年度】

事業評価 完了報告書提出（4月）

完了報告会（6月14日）

3. 事業募集について

(1) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	① 事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	② 事業手法に独自性、先駆性等提案団体の特性が認められるか
	③ 適切な役割分担となっているか
	④ 提案事業は実現可能か
	⑤ 協働で取り組むことによる事業効果を認めることはできるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	① 提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	② 提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③ 提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることはできるか
	④ 事業内容に整合性が認められるか
	⑤ 協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥ 総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

(2) 選定事業

	事業名	団体名
1	北区繋がり広がるプロジェクト（アウト リーチ型支援事業） (R6 年度～R8 年度)	一般社団法人 SHOIN

第2章 実施事業の概要

1. 北区繋がり広がるプロジェクト（アウトリーチ型支援）

提案団体 一般社団法人 SHOIN

主 管 課 子ども未来課

（1）団体概要

子ども達の健全な成長・自立を支援する活動を行っていきます。家庭環境に
関わらず全ての子ども達に、いかに生きていくべきかを学ぶ機会や必要となる
人との出会いを創っていきます。

（2）事業目的

訪問員が月1回プレゼントをお持ちし、子ども達やそのご家族と顔を合わせ
ることで、子どもや子育て家庭との顔の見える繋がりをつくり、行政だけでは
目の届かない子育て家庭の状況把握をすると共に、関係機関・団体と連携して
必要かつ適切な支援につなぐ仕組みづくりを目的としています。また孤独・孤
立や貧困の問題をその家庭の問題ではなく、地域の社会課題として、子ども食
堂等の子育て支援団体、企業・経済団体などが一緒になって取り組むプロジェ
クトを目指します。

（3）事業概要

□アウトリーチ型支援

アウトリーチ型支援が必要と思われる方に本プロジェクトに利用登録いただ
いた後に、子ども達に直接プレゼントをお渡しする日時を調整していきます。
定期的に子ども達やそのご家族と顔を合わせていく中で、子ども達やその保護
者とたくさんの会話ができる関係をつくり、相談事を聞くことによって、確か
な繋がりをつくっていきます。その中で、子どもや家庭に潜在する課題を発見
し、必要性があれば支援に繋げることができます。子どもを取り巻く家庭環境
を含む包括的な支援となります。

□アウトリーチミーティングの開催

アウトリーチ支援事業の実績がある団体から外部講師をお招きし、アウトリ
ーチ型支援の活動注意点などを学ぶ研修の機会としていく他、我々もリスクマ
ネジメントなどのノウハウを蓄積する機会としていきます。

その他、支援者の報告会ステークホルダーと情報共有できる機会を開催します。

□事業 PR

本プロジェクトを周知し、拠点型の支援を継続している方に、訪問員（アウトリーチャー）になっていただくべく、北区子ども食堂ネットワークや北区フードパントリーネットワーク加盟団体にPRをしていきます。また本プロジェクトを主管課の協力を得て、広くPRをしていきます。

その他、訪問員の方が利用者のご自宅を訪問するツールとなる月1回のプレゼントを支援いただける地域・企業を募っていきます。

（4）役割分担

団 体：本事業を通して、アウトリーチ型支援を広め、支援の在り方の拡充を目指します。また孤独・孤立や生活困窮は、その家庭の問題ではなく、地域社会の課題です。その社会課題解決に向けて、民間団体や企業・団体などを積極的に巻き込んでいきます。

主 管 課：支援対象者を支える訪問員・支援者を増やすこと等のため、団体と連携しながら広報・PRを進めます。また、孤育て家庭や行政等の支援が十分に行き届かない困難家庭等を発見・救済し、必要な支援について検討するため、定例の報告の場を活用し地域の関係者と区が密に情報交換を行います。

（5）事業の決算額

区 分	項 目	金 額 (円)
収入	北区負担金	1,626,078
	団体負担金	10,000
	収入計	1,636,078
支出	謝礼	320,000
	人件費	604,920
	消耗品費	586,959
	印刷製本費	33,445
	通信運搬費	2,614
	保険料	15,300
	委託費	0
	賃借料	59,920
	旅費交通費	12,920
対象外経費		
	支出計	1,636,078

SHOIN

Dreams lead to success

事業報告書

一般社団法人 **SHOIN**

Origin of name

一般社団法人

SHOIN

松陰…学問とは、人間はいかに生きていくべきかを学ぶものだ

勝因…困難に勝つために必要な経験と仲間に出会う

Mission

全ての子ども達のために

子ども達が心身共に健全で、自らの将来の視野を広げながら成長していくために活動することを目的とします。



History

2017年	10月	子ども達の居場所づくり実行委員会として活動をスタートさせる。
2018年	1月	こども食堂あゆみを北区東十条の社会福祉法人あゆみにてスタートさせる。
	7月	夏休みこども農業体験を千葉県大網白里市にてスタートさせる。
2019年	11月	北区社会福祉協議会と共催でキャリア学習職業体験をスタートさせる。
2020年	3月	フードパントリーらららを北区神谷のファミーレらららでスタートさせる。
2021年	4月	一般社団法人 SHOIN として法人化する。
	7月	北区繋がり広がるプロジェクト(アウトリーチ型支援事業)をスタートさせる。
2022年	4月	北区王子本町に事務所を構える。フードパントリーらららを事務所に会場変更する。
2024年	4月	北区繋がり広がるプロジェクトを北区政策提案協働事業として北区子ども未来課と実施する。

Member

代表理事 吉原 隆平 吉原隆平綜合法律事務所・弁護士 「愛とは何か」をテーマに活動しています。	理事 小池 一博 株式会社ヴィルトゥススポーツクラブ・指導者 子ども達のために全力で取り組みます。
理事 細野 晃生 株式会社エクセル保険・保険代理業 無理せず自分らしく。塵も積もれば山となる。	監事 吉羽 恵介 吉羽税理士事務所・税理士 同世代の仲間と活動する延長線上を地域貢献にしたい。
理事 田村 哲朗 株式会社エスティサービス・飲食店経営 みんなが笑顔で繋がる良い地域にしていきたい。	理事 瀧井 雅代 金融業 自ら行動しなければ変えられない。千里の道も一歩から
理事 若松 橋 株式会社ビジネスホテルニ店舗運営 皆が幸せで盛り上がるまちづくりを目指します。	

事業・Projects

◆こども食堂あゆみ (2018.1月～)

[開催日時] 毎月第2・4水曜日 18:00～20:00

[会場] 社会福祉法人あゆみ(北区東十条6-5-19)

[内容] 子ども無料・大人300円／誰でも分け隔てなく、楽しく過ごし、みんなでわいわい夕食を食べます。



◆フードパントリーららら (2020.3月～)

[開催日時] 毎月第2・4水曜日 18:00～20:00

[会場] 一般社団法人 SHOIN 事務所(北区王子本町2-15-19)

[内容] 地域の食の中継地点として、企業から受け取った食品を利用登録されたひとり親世帯にお渡します。

◆北区繋がり広がるプロジェクト (2021.7月～)

[開催日時] 月1回

[内容] 訪問員(アウトリーチャー)が、子ども達・家庭にプレゼントを持ってご自宅に訪問し、見守りや相談する包括支援となります。

◆夏休みこども農業体験 (2018.7月～)

[開催日時] 夏休み期間中

[会場] 千葉県大網白里市etc

[内容] 様々な理由で遠出する機会の少ない子ども達と一緒に夏の思い出をプレゼントする。

◆キャリア教育 北区で職業体験 (2019.11月～)

[開催日時] 毎年10月頃

[会場] 順天中学校・高等学校

[内容] 共催：北区社会福祉協議会、協力：東京青年会議所北区委員会／区内子ども達が様々な仕事を体験する機会とします。

◆渋沢栄一「論語と算盤」検定 (2021.3月～)

[開催日時] 年2・3回程

[内容] 渋沢栄一翁の考え方を知り、先の見えにくいこの時代を生き抜くための術を学び取る。

and more

事業の社会背景・*Project background*

日本の子どもの7人に1人が貧困

・2019年の厚生労働省の国民生活基礎調査によると貧困線は年収127万円で、日本の18歳未満の子ども達の貧困率は13.5%で約7人に1人が貧困となります(厚生労働省「2019年国民生活基礎調査の概況」より)。

「相対的貧困」…世帯所得が貧困線(等価可処分所得の中央値の半分)に満たない状態のこと

「絶対的貧困」…国や地域のレベルとは無関係に、生きること自体が困難なレベルで生活水準が低いこと

・「過去一年間で必要とする衣服が買えなかった経験があったか」の問いに、「よくあった」・「ときどきあった」・「まれにあった」を合わせた割合は、相対的貧困にある世帯は45.8%となっています(内閣府「令和3年度子供の生活状況調査の分析報告書」より)。

ひとり親世帯の約半数が相対的貧困

・ひとり親世帯の貧困率は48.1%であり、ひとり親の約半数が貧困で苦しんでいることになります。(内閣府「平成27年版自殺対策白書」より)

4~5割の人が孤独を感じている

・孤独感が「常にある」「時々ある」人が47.0%、孤独感が「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」人が39.3%となっています(令和5年全国調査「人々のつながりに関する基礎調査(内閣官房孤独・孤立対策担当室)」より)。

・つながりが薄い社会では、孤独・孤立の問題は誰にでも起こり得ます。支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいます。

我々は、様々な機会の提供・多様な価値観との出会い・自己肯定感の醸成へ寄与し、

子ども達の生きる力を育む活動を行います。



こども食堂あゆみ

SHOIN の原点

地域のために何ができるかを模索している中で、「子ども食堂をつくろう(豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク栗林知恵子著)」を読み、東京都北区で子ども食堂をスタートさせようと活動を始めました。



一般社団法人 SHOIN の前身でもある任意団体での子ども達の居場所づくり実行委員会を 2017 年 10 月に設立し、子ども食堂を開始するためのヒト・モノ・カネ・情報について、多くの方々に助けられながら 2018 年 1 月からこれまで毎月第 2・4 水曜日で開催しています。

コロナ禍でも諦めない

コロナ禍では、会場となる社会福祉法人あゆみが感染症対策のため使用できないなど、子ども食堂の開催は容易ではありませんでした。そういう中でも理事の飲食店を借りて実施したり子ども食堂の居場所としての機能を維持していこうと必死でした。

2021 年 2 月からはキッチンカーを活用して、屋外でテイクアウト形式での子ども食堂を開催することとし、温かい夕食を提供しました。当初はテイクアウト形式が居場所としての役割を果たすのか心配な面もありましたが、コロナ禍前から通っていた子ども達が戻ってきました。

ネットワークの好循環を目指す

北区内での子ども食堂も 30 団体を越えました。我々だけの子ども食堂だけが認知度が高まったり、支援が集まったりといったことでは、子ども食堂は地域のインフラにはなりません。

そのために「北区子ども食堂ネットワーク」のシンボルロゴやホームページを作成するといったネットワークをより良くするための活動も、これまで積極的に行ってきました。

フードパントリーららら

食の中継地点として

新型コロナウイルス拡大の影響を受け、2020 年 3 月に政府が全国の小中学校の休校を要請したことにより、学校給食もない、子ども食堂にも行けずに食に困る子ども達がいたために、以前から開催を検討していたフードパントリーを前倒しして開催することとしました。

今では、北区内のひとり親世帯の 75 世帯が事前登録制で利用されています。身近な食の中継地点としての役割だけでなく、運営者である我々と利用者が定期的に繋がっていくことで、相談なども増えており、社会的孤立を防ぐ役割も担っていると感じています。

北区フードパントリーネットワーク

子ども食堂同様にフードパントリーも北区社会福祉協議会が事務局となっていたいただき、北区フードパントリーネットワークを設立しました。我々が北区内で初のフードパントリーであったこともあり、理事の小池が世話人という役割で定期的に情報共有や意見交換する場となっています。

たくさんの方に支えられて

子ども食堂もフードパントリーもたくさんのボランティアの方に支えられて成り立っています。子ども食堂をお手伝いしたいと連絡してくださり、継続してボランティアとしてご協力いただいております。また東京家政大学をはじめとする学生ボランティアも子ども達の素敵なおねえさん・おにいさんの存在になってくれています。

フードパントリーでは、毎回開催日にフードロスの観点から集まった食料品を倉庫に取りに行ってくださる役割も地域企業が担ってくださっています。またなかなか手に入らない野菜も支援者・農家に支えられています。



北区夏休みこども農業体験

子ども達に思い出を提供する

北区内の子ども食堂に通う子を対象に、年に1回夏休み期間中に農業体験を実施しています。夏休み後の9月に子ども達がなかなか学校に行けなくなったり、自殺率が上がってしまったといったことがあるため、子ども達に確かな思い出をつくってもらうこと、非日常の体験活動を通じて自己肯定感を得てもらうこと、新たな大人達と触れ合うことで多様な価値観を知ることを目的として行っています。

キャリア教育 北区で職業体験

お仕事・将来について考える機会をつくる

経済的困窮をはじめ、その周辺層の世帯収入の子ども達が困窮を原因として、進学やその先の職業の選択など将来の夢を描けない現状があります。その中には、そもそも周囲に自身が目標とできるようなロールモデルがないなどの子どもがあり、「なりたい自分」を想像する機会が少ないと、社会にはどのような仕事があるのか、その仕事に就くためにはどのような事が必要なのか知る機会が少ない事も原因となっていると考えます。



そこで、小学生の将来に対する夢の実現に向けた材料提供の一つとして、公益社団法人東京青年会議所北区委員会や東京商工会議所北支部に所属する様な地域企業の方々に講師となっていただき、子ども達が職業の一部を疑似体験することで、参加する子どもが将来を想像することができるきっかけとしていきます。

楽しく学ぼう！みんなの防災教室

子ども食堂×防災

子ども食堂は、既に学校や町会、自治体や社会福祉協議会、そして地域の企業・団体などとも連携しており、そこが「防災」という観点でも地域にとって重要な役割を担うことが、眞の子ども食堂のインフラ化にも繋がることにもなってきます。



子ども食堂がコミュニティを醸成し・地域の防災意識を高める。その子ども食堂の安全性が災害時にも保たれている。そして、子ども食堂が災害時にも安全安心や食の提供を行えることができるはずです。避難場所の認知や防災意識強化、地域連携強化を目的としたイベントです。



北区繋がり広がるプロジェクト(アウトリーチ型支援)

◆事業目的

本事業は、子育て家庭が孤立しないよう、地域の子どもを見守ることができる方法・支援の在り方を増やし、見守り環境を強化する目的として実施する。

なぜアウトリーチ型支援が大切なのか

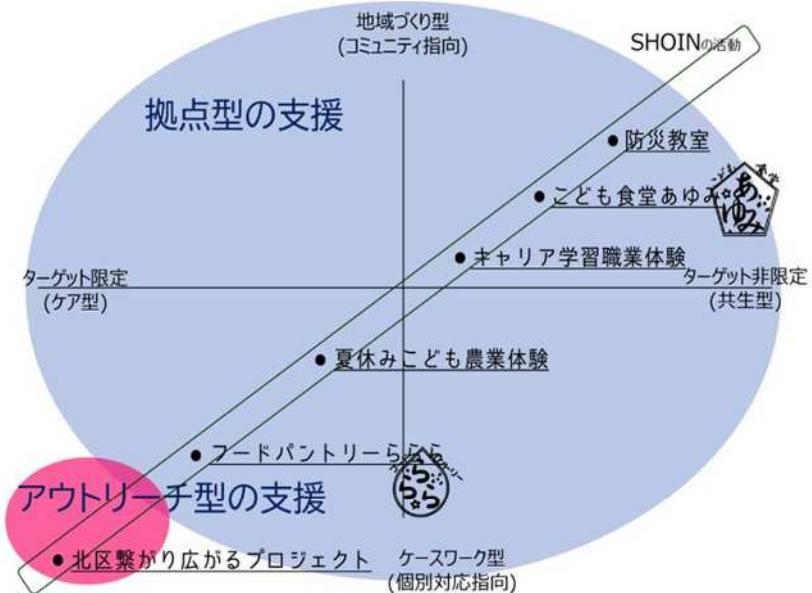
アウトリーチ型支援と拠点型支援

アウトリーチ型支援とは、支援を行う側が、支援を必要とする子ども達・家庭に出向き、見守りや相談などを続けていく支援活動です。

本当に支援が必要な方は、支援が必要な状態であっても、助けを求める感覚が鈍化していたり、支援に関する情報を持っていないという場合が多くあります。

コロナ禍を経て、子ども食堂やフードパントリーといった拠点型の支援では、子ども達の見守りは十分なものではなくなりました。これでは支援を届けたい方に出会

うことはできません。そこでアウトリーチ(訪問)型支援が必要と考えます。



拠点型支援と共にに行なうことが大切だと考えます

アウトリーチ型支援は大切ですが、支援をお届けする子ども達・家庭を把握できていなければ、アウトリーチを実行することはできません。

子ども食堂やフードパントリー、学習支援、その他様々な体験活動などの拠点型の支援活動を継続しているからこそ、日々の子ども達や家庭の存在を知り、見守ることができるはずです。

また拠点型の活動を継続する中で、他団体の子ども食堂や社会福祉協議会、民生・児童委員、学校、地域住民、行政機関などとの関係性から子ども達を把握することもできます。

◆SHOINが実施するプロジェクトの位置づけ

図は、横軸をターゲット、縦軸を役割として、我々のプロジェクトの位置づけを表したものです。子ども食堂あゆみは誰でも受け入れており、共生型の活動です。反対にフードパントリーらららは、ひとり

親世帯に限定しているのでケア型の活動となります。

我々のミッションである「全ての子ども達に」届けるため共生型からケア型まで点ではなく線となる活動を目指しています。ただこれらの活動は全て拠点型の支援であり、より孤独孤立対策や個別対応していくと思うとアウトリーチ型の支援が必須となります。ここに北区繋がり広がるプロジェクトをはじめたきっかけがあります。

公民連携で確かな仕組みに

令和6年度から北区政策提案協働事業として実施していきます。

國も「孤独・孤立対策推進法」を令和6年4月1日より施行の流れとなりました。その基本方針には、

- ・人と人のつながりを実感できる地域づくりとして「アウトリーチ型支援」を進めていくこと

- ・公民連携・官民連携

の基盤となるプラットフォーム

をつくること、が明記されています。

上の図は、「孤独・孤立の問題とそのアプローチ」をまとめたものです。アプローチ1として、子ども食堂やフードパントリーなど拠点型支援による日常生活環境における対応があります。その中からアプローチ2として、繋がり続けることが必要な方に対して、アウトリーチ型支援を行います。

地域全体の包括的な相談支援体制を構築するにあたり、我々民間団体は、日常生活環境における支援として、継続的に繋がる機能を強化していくための役割の一端を担うものです。行政と民間の役割分担を捉えながら、互いに信頼して取り組んでいく必要があると思っています。

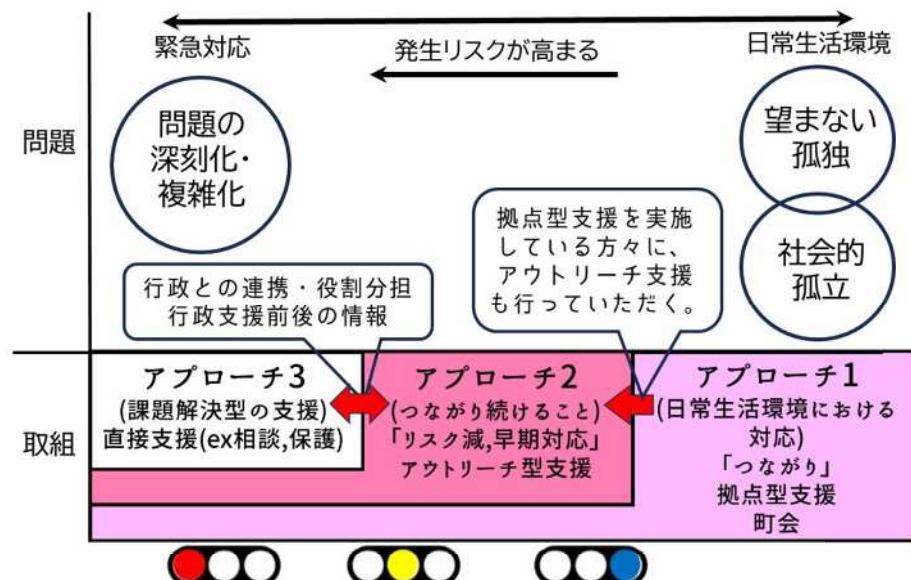
◆役割分担

[SHOIN の役割]

- ・本事業の安定的かつ効果的な運営を図ること。
- ・本事業の実施に関し、必要な調整を区と図ること。
- ・本事業の実施に関し、必要な人材の確保を図ること。
- ・区に対し、協働事業に関しての専門的知識、情報及び手法を提供すること。

[区の役割]

- ・本事業の企画、実施及び自立に向けた助言を行うこと。
- ・本事業を区民に周知すること。
- ・本事業の実施に必要な情報の提供を行うこと。
- ・団体に対し、協働事業に関しての知識やノウハウを提供すること。



◆事業概要

1) アウトリーチ型支援

①地域の方に、訪問員(アウトリーチャー)になっていただく

子ども食堂運営者、子育て支援団体、民生・児童委員など地域のキーパーソンとなる方々は、アウトリーチ型支援が必要な子ども・家庭とお知り合いであることが多く、そういう方に訪問員(アウトリーチャー)となっていただきます。

2024年度は10名の訪問員で活動しています。

「本プロジェクト協力団体」

一般社団法人 COCORO ごはん

NPO 子育てママ応援塾ほっこり～の

フィレールラビッツ浮間

みんなの夕はん処きりのはな

②アウトリーチ支援が必要な世帯に利用登録してもらう

1) 支援対象者に 本プロジェクトの利用登録をしていただきます

支援対象者は、拠点型支援活動などによって出会った「アウトリーチ型支援が必要と思われる方」です。

◇「アウトリーチ型支援が必要と思われる方」とは?

- ・孤独・孤立を感じている家庭
 - ・拠点型支援で支援を受けられなくなってしまった家庭
 - ・家庭環境に心配な面のある子ども
 - ・ひまごもりや不登校などの子どもなど

一般に、「孤独」は主観的概念であり、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがある。他方、「孤立」は客観的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指す（孤独・孤立対策の重点計画より）。

※アウトリーチ型支援対象者の選定にあたっては、訪問員の方々にお任せしますが、支援の性質上、妥当性を十分に検証して決定します。

2) 支援対象者にチラシをお渡しする

訪問員と利用者との関係性の距離によってとはなりますが、「あなたを支援しますよ」ではなくて、地域の希薄化の改善やコミュニティ醸成といった形で本プロジェクトに参加してもらう形で利用登録していただくことをお勧めします。

「チラシ」

～～地域の繋がりが希薄と言われる昨今ですが、地域の子ども達と地域の大い達が顔の見える関係性となり、見守れる地域となれたらと思います。是非「北区」と記載されています。

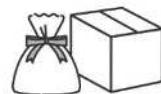
※「このチラシをもらった訪問員の名前」欄に、訪問員のお名前をご記入した上で利用者にお渡しください。

3) 利用登録

支援対象者より一般社団法人SHOINにメール・FAXで利用登録の連絡が入りましたら、該当の訪問員の方にその旨をご連絡します。当月または翌月からプレゼントをご用意します。

※利用対象者の食物アレルギーの有無・内容については、利用登録があった際にSHOIN事務局側で確認させていただきます。

③ プレゼントを訪問員のご自宅にお届けします。



1) プレゼントを訪問員の皆様にお届けします。

訪問員の方が訪問する件数分のプレゼントを訪問員のご自宅または団体事務所等の指定先にお送りします。

※地域企業からの寄付や税金を原資とした補助金から準備しています。大切に取り扱いください。

2) 利用者と訪問する日時を調整してください。

プレゼントは子ども(支援対象者)に直接お渡しできる日時で調整してください。

※必要な方は、SHOIN 事務局側で日時調整させていただきます。

ご自宅に訪問して見守り続ける(目的)ために、プレゼントをお届けすること
(方法・手段)としていきます。

[支援対象者アンケート：お子様はどんなプレゼントを喜んでいましたか？]

- ・お菓子
- ・洋菓子の詰め合わせ
- ・ケーキ、お煎餅
- ・チョコレート
- ・ゼリー

区民や地域企業からのご寄付も増えてきました。



[支援対象者アンケート：今後あったらよいなと思うプレゼントがあれば教えてください。]

- ・数が少なくとも普段買えない物や流行り物など、親が買ってあげなそうな物
- ・食べ盛りなので食品はとてもありがとうございます。
- ・ご当地のものなど
- ・子供たちが自分たちだけで食べられるような食事の代わりになるもの
- ・イチゴ
- ・なんでも嬉しいです

④ いざ訪問！

訪問員が月1回プレゼントをお持ちし、子ども(支援対象者)やその家族と顔を合わせていきます。
そしてたくさんの会話ができる関係をつくり、相談事を聞くことによって、確かな繋がりをつくっていきます。その中で、家庭に潜在する課題を発見し、必要性があれば具体的な支援に繋げていきます。

29世帯68名の子ども達が、このプロジェクトを利用しています。

◆訪問の際の注意事項

- ・本事業のアウトリーチ支援の性質上、玄関先で子ども(支援対象者)やその家族とお会いしてください。
- ・プレゼントは子ども(支援対象者)に直接手渡ししてください。
- ・アウトリーチ支援の前に、訪問員の方は拠点型支援などによって、支援対象者と関係性がある状況が望まれます。
- ・訪問員と子ども(支援対象者)またはその家族との関係性がある程度構築されるまでは、現訪問員の方と一緒に(2人以上で)アウトリーチ支援を行ってください。
- ・訪問員が、アウトリーチ型支援するにあたり、事前に危険性を感じるようなことがあれば、決してアウトリーチ型支援を行わないでください。

- ・訪問した際に、虐待などの状況があった際は、本マニュアル 5P に記載ある「児童虐待通告(相談)窓口」または「主な行政支援の連絡先」への通報をお願いします。
- ・支援対象者本人やその保護者と関係性を構築していく他、丁寧なアセスメントを行なながら、必要があれば、適切な支援機関(支援の入口)に繋いでください。

◆アウトリーチ報告

訪問後は、SHOIN 担当(小池)に対して、右記の簡易報告を行ってください。

アウトリーチ報告書
 [訪問員氏名]
 [訪問日時] 2020.○.○
 [訪問件数] ○件
 [支援対象者(お子様・ご家族)の普段と
 違った様子があればお教えください]
 [その他報告事項]

◆個別のケースに対する検討について

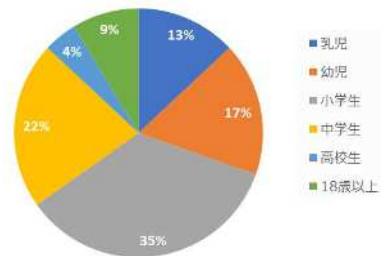
支援対象者のアウトリーチ型支援を行う上で、支援に関わる自身や自団体だけでは解決策等が見えてこないことなどの相談事項があれば、本プロジェクトに関わる訪問員の中で相談や検討する場を設けたり、定期開催していくアウトリーチミーティングの場で話し合っていきましょう。

◆アウトリーチ支援の終結

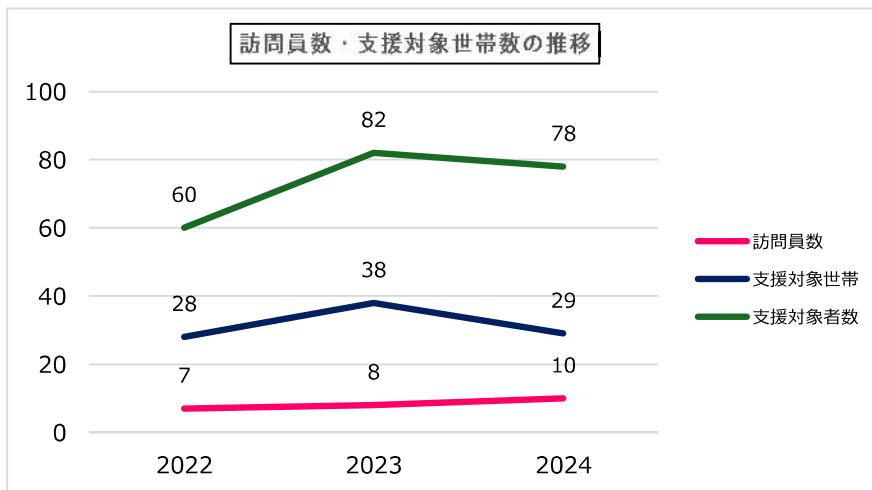
支援対象者が拠点型支援で定期的にお会いできる状態となったり、支援対象者が信頼して相談できる方・団体・機関と繋がることができた段階で、アウトリーチ型支援の終結を考えていきましょう。また、支援対象者が再びアウトリーチ型支援が必要となった際は、支援を再開させることも可能です。本プロジェクトの利用を終結した支援対象者がいた際は、必ずご連絡ください。

[対象者の年齢層]

こども達に対しての支援としていますが、以前から繋がりのある方で既に成人を迎えてる方もいます。孤独孤立や社会的な繋がりを求めてる方は本プロジェクトの対象者とみなしております。



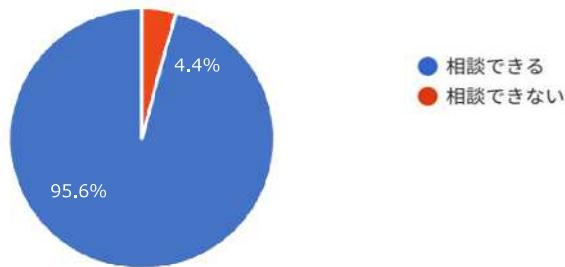
[訪問員数・支援対象世帯の推移]



北区内ではアウトリーチ型支援の導入期かと思っておりまして、訪問員の数も支援対象者の数も、右肩上がりではなくてはならないところ、そうなっておりません。子ども食堂運営者・地域のキーパーソンが訪問員になっていただいておりますが、そういう訪問員の方は、日々拠点型支援の運営やそこでの見守りもあるため、他業務との両立が難しく、実際にアウトリーチを途中でやめられた団体もありました。

今後は一般ボランティアの方に訪問員になっていただく、また行政との連携から必要としている方と繋がっていく必要があります。

[支援対象者アンケート：あなたは訪問員に悩みや困りごとの相談ができますか？] 回答者 23 世帯



[支援対象者アンケート：訪問員に相談したこと、どのような点がよかったです？] 回答者 23 世帯

- ・子供の学校での悩みや家庭での悩みなど
- ・悩みをお話した時に私の気持ちに寄り添うお言葉をかけていただいた時。
- ・息子に対していつも優しい眼差しで接してくださり、息子の事を丸ごと受けとめて愛情をたくさん注いでくださっているのが伝わる会話をしてくださった時。
- ・快く受け入れてくれるところ
- ・進路等の疑問や悩みに分かりやすくアドバイスをしていただいたので悩みが晴れました
- ・ちょっとした愚痴でも聞いてくださり、私の意見だけでなく子供たちの気持ちも汲み取って返答してくださるのすごく助かってます。
- ・家のことなど具体的に相談に乗ってくださり、解決することができました。
- ・子育ての落ち込みを吹き飛ばしてくれること
- ・親身になってくれる

[支援対象者アンケート：訪問員の他に、子育て相談をしたことがある場所(人)があればお教えください。]



[支援対象者アンケート：いつも接している訪問員の方に、一言メッセージをいただければ幸いです。]

- ・子供の学校や家庭での悩みなど親身になって相談を聞いて頂き、また食品を届けて下さり私達家族に寄り添ってもらっています。
- ・いつもとても感謝しています。ありがとうございます。
- ・毎月訪問していただきありがとうございます。息子も私も元気をたくさんいただいております。
- ・当初は全く登校出来なかった学校も少しずつ行くようになりました。学校以外の活動にも参加できるようになり生き生きとしております。大変感謝しております。今後ともよろしくお願ひいたします。
- ・いつもありがとうございます。子供も、私にとっても助かっています
- ・いつも気にかけていただき、何かあれば声をかけてもらえるので親子共に感謝しています
- ・いつも本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひいたします。
- ・暑い日も寒い日も届けていただいて感謝しています。いつもありがとうございます。

2) アウトリーチャーの学びの機会の創出

リスク対応や訪問員養成のために、現訪問員や新規訪問員の方々、そしてもちろん我々運営者の学びの機会を行っていきました。

①アウトリーチミーティングの開催

アウトリーチ型支援の活動注意点などを学ぶ研修機会、運営側や訪問員のリスクマネジメント等のノウハウを蓄積する機会、その他支援者の報告会ステークホルダーと情報共有できる機会として、アウトリーチミーティングを開催しました。

**北区
繋がり
広がる
プロジェクト**

本プロジェクトは、アウトリーチ(訪問型支援)として、訪問員が子ども達のご自宅へ向い、月に1回プレゼントをお届けしながら、地域の大人達が子ども達を見守る仕組みです。

この度、これまでの活動のご報告の他、先駆的にアウトリーチ支援を行う方を講師にお招きしての講演会や参加者皆様とのグループディスカッションにより、より発展的にアウトリーチ支援を進めていく機会とさせていただきます。ご参加をお待ちしております。

アウトリーチャーミーティング

2025年2月1日(土)
13:00~15:00 (12:30受付開始)
北とぴあ14階スカイホール
(東京都北区王子1-11-1-14F)

第一回：講演会
第二回：プロジェクト報告&グループディスカッション
参加費無料

つながりサポーター養成講座

2025年2月1日(土)
10:00~11:30 (9:30受付開始)
北とぴあ14階スカイホール

*終了後に、受講証を配布いたします。
参加費無料

お問い合わせ
一般社団法人 SHOIN 担当：小池
メール：shoin.shoin2020@gmail.com
tel：080-9269-5525

お申込み
右記二次元コードから
アクセスできます。

HP
<https://shoin-tokyo.com/>
<https://tsunagaru-kita.net/>

【開催日】 2025年2月1日(土)

【時間】 13:00~15:00

【会場】 北とぴあスカイホール

【参加人数】 参加者 50名

【訪問員、訪問員団体、訪問員に興味を持つ個人・団体、区内子ども食堂運営者、フードパントリー運営者、子育て支援団体、支援企業・団体、北区社会福祉協議会、外部講師】

【内容】

【第一部】 NPOホームスタート・ジャパンよりアウトリーチ型支援講演会

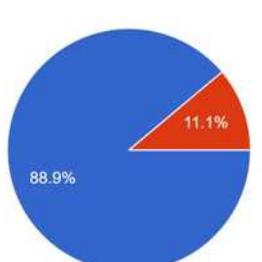
【第二部】 北区繋がり広がりプロジェクト(アウトリーチ型支援事業)報告とグループディスカッション

【当日の様子】



【参加者アンケート：本イベントはいかがでしたか？】回答者 38名

【参加者アンケート：本イベントを通じ、アウトリーチ型支援に関する見識は深まりましたか？】回答者 38名



- 1 大変満足した
- 2 やや満足した
- 3 普通
- 4 やや不満である
- 5 大変不満である



- 1 深まった
- 2 何とも言えない
- 3 深まらなかった

【参加者アンケート：本イベントを通じ、北区繋がり広がるプロジェクトに参加(訪問員,ボランティア,支援など)してみたいと思いましたか?】



②つながりサポーター養成講座の開催

内閣府孤独・孤立対策推進室が推進する「つながりサポーター養成講座」を、訪問員養成や本プロジェクトの周知を目的に、東京都北区として初めて実施いたしました。

【開催日】 2025年2月1日(土)

【時間】 10:00~11:30

【会場】 北とぴあスカイホール

【参加人数】 参加者 10名

【講師】 一般社団法人 SHOIN 理事 小池 一博

「つながりサポーター養成講座」とは？

孤独・孤立に関する知識を学び、みんなで孤独・孤立について考える場所が「つながりサポーター養成講座」です。

「誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会」の実現に向けて、一緒に歩み出でていきましょう。

③北区子ども家庭支援センターとアウトリーチャーの意見交換会の創出

訪問員が一人で支援者の困りごとや悩みを抱え込まないためにも、2025年度より訪問員と子ども家庭支援センターのミーティング機会を創出すべく、主管課・子ども家庭支援センターと協議を行ってきました。

本プロジェクトで活動されている訪問員から困りごとなどについて、子ども家庭支援センターワーカーからの助言による解決に繋げていく形をとっていくと共に、行政と民間団体の距離が縮まる機会になればと考えています。

3) 事業 PR

主管課である北区子ども未来課にご協力いただき、様々な箇所・媒体で本プロジェクトの周知を行いました。

□北区ニュース掲載

□パンフレット設置 [設置場所]

区内児童館・子どもセンター…21館、区内小学校…37校、区内中学校…12校、区内保育園…122園

□PR 機会

小学校PTA連合会会長会、中学校PTA連合会会長会、児童館館長会

□きたハピモバイルでの周知

子育て世帯向けのアプリであるきたハピモバイルでお知らせに掲載していただきました。

□子育て支援情報メール

北区メールマガジン登録者と北区公式LINEを追加している方に周知できるメールに掲載いただきました。

□各種 SNS (X, Facebook)

北区公式 X と Facebook にて本プロジェクトを周知いただきました。

The image shows the official X and Facebook pages for the 'Kita-ku Kitanari Higashigaru Project'. The X page features a pink header with the project's logo and name. It includes sections for 'Support Measures', 'About', 'Content', and 'Social Background'. The Facebook page has a similar layout with sections for '一人ひとりが、 区民としてできること' (What one person can do as a resident), '訪問員としてできること' (What a visitor can do), 'アウトリーチャー(訪問員)として、継続的に支援対象者と繋がり続ける' (As an outreach worker, continue to support and maintain contact with the target population), and '寄付という形で本プロジェクトを定期的に支援する' (Contribute to the project on a regular basis). Both pages include contact information, QR codes, and a call to action for individuals and businesses to contribute.

◆事業の成果や課題

□支援対象者を増やす

The diagram illustrates the goal of increasing the number of support recipients. It shows a figure of a man and a woman, with the text '支援対象者を増やす' (Increase the number of support recipients). Below this is a box containing the text '[支援対象世帯数] 29世帯 → 45世帯' (Number of households supported: 29 households → 45 households). To the right, an 'action plan' section titled '『支援を必要としている方に届ける』' (Deliver to those who need support) lists the following steps:

- ・弊団体のフードバンチリーに通う方から必要な方にアウトリーチを行う。
- ・民生委員・スクールソーシャルワーカーとの連携を協議する。
- ・町会内での連携を協議する。
- ・子ども家庭支援センターとの連携を協議していく。

- ・計画時よりも支援対象者の数が下回りました。その理由に支援を必要としている子ども達と繋がる方に十分に訪問員になっていただけていない現状があげられます。訪問員を増やすことで、支援対象者が増えることにも繋がるためその点も継続していきます。
- ・スクールソーシャルワーカーからの連絡も増えてきました。これまでにもスクールソーシャルワーカーが把握するお子様に我々の子ども食堂を紹介したいというお電話をいただいたりします。それと同様に、アウトリーチ型支援を必要としている子ども・ご家庭に本プロジェクトを通じて我々と繋いでいくことが、必要としている方に支援が届く形になると思っています。今後もそういう形がごく一般的になるように、スクールソーシャルワーカーや子ども家庭支援センターと協議を進めています。
- ・町会内で、町長や民生委員がその地域の中で困っている方を把握しており、その方と繋がっていることはよくあります。新たなアプローチ方法として、町会内で本プロジェクトを進めていただく形をとりたいと思っています。それを実現できるように幾つかの町長に本プロジェクトの詳細を説明させていただけます。後々はその町会で訪問員も発掘し、地域の子どもを地域の方が見守る仕組みになっていけたらと思っています。

□訪問員を増やす

□訪問員を増やす



[訪問員数]
8人→15人(+7人)

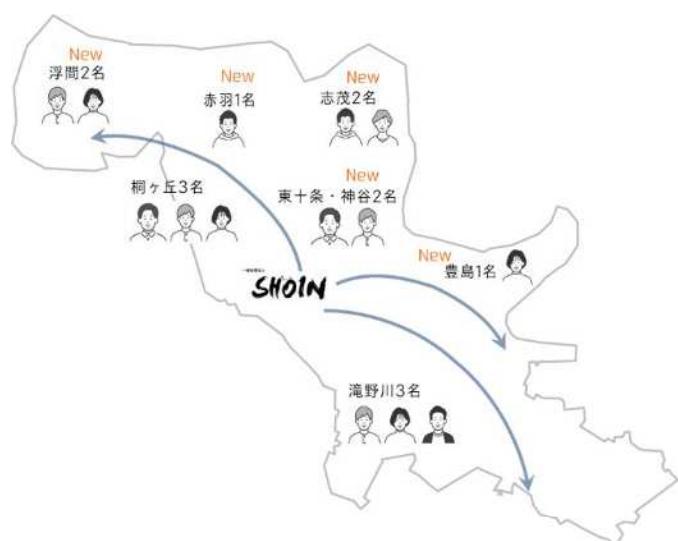
[訪問員1人あたりの訪問数]
1人あたり3.6人→1人あたり3人

□訪問員の負担・リスク軽減と
学びの機会をつくる

action plan 『“アウトリーチ”を広げる』

- ・「アウトリーチ」を区民の方に知ってもらう。(HP・SNSの活用)
- ・北区内子ども食堂運営者等への再アプローチする。
- ・一般ボランティアの支援までのプロセスを決定する。
- ・「つながりサポーター養成講座」の定期開催する。
- ・「アウトリーチミーティング」をオンラインとのハイブリッド開催を検討する。
- ・我々のプロジェクトに参加いただけけるような会とする。
- ・アウトリーチャーが子ども家庭支援センターーウーカーと相談できる場をつくっていく。

- ・計画時よりも訪問員の数が下回りました。その原因として、まだまだ「アウトリーチ」や「孤独孤立の問題」が周知されていないことがあげられます。これらをもっと広く周知していった先に、訪問員になる方が出てくると感じました。そのために本プロジェクトやアウトリーチを広げるための周知活動にも力を入れていきます。
- ・本プロジェクトやアウトリーチを区内に周知するために、今年度行ってきた事業PRを主管課の協力も得て、強化していきます。弊団体では、SNSがFacebookしかありませんが、Instagramも開設させて、周知を進めています。
- ・訪問員を増やすことで、支援対象者が増えることにも繋がるため、北区子ども食堂ネットワークや北区フードパントリーネットワークに加盟する団体への訪問員募集も継続していきます。
- ・「訪問員のボランティアをしたい」といった区民のメールも有難いことに少しずつ出てきました。そこで「つながりサポーター養成講座」や「アウトリーチミーティング」を受講した後に、現訪問員との何回かの訪問を行った後に、訪問員としてボランティアいただくプロセスもとっています。
- ・アウトリーチミーティングの在り方も、今年度行った勉強会の様な形よりも、訪問員や支援者などステークホルダーがその日を皮切りに本プロジェクトに参画しやすくなるような機会にしていきたいと思っています。そのため現訪問員や現支援者の話といったことも内容に加えていきます。
- またアウトリーチミーティングは、平日開催としましたが土曜日開催に変更を検討し、多くの方に参加していただけるように、次回はオンラインとのハイブリッド開催をしたいと思います。
- ・訪問員が一人で支援者の困りごとや悩みを抱え込まないためにも、2025年度より訪問員と子ども家庭支援センターのミーティング機会を創出すべく、主管課・子ども家庭支援センターと引き続き協議を行っていきます。
- ・2024年度は10名だった訪問員も、図にあるように2025年4月現在で14名となりました。
- しかしながら「地域の子どもを地域の大人が見守る仕組み」の中では、訪問員と支援対象者のマッチングができていない現状です。これからも支援対象者と繋がること・訪問員を増やすことを同時に進めていき、見守りの網の目を細かくしていきたいと考えます。



□寄付を募る

 □寄付を募る

[プレゼント寄付]
270,000円
(実際にかかる費用810,000円 × 1/3年分)

action plan 『最低4か月分の寄付を募る』

- ・社会課題として一緒にプロジェクトに参加していただく。
- ・1年間12社程、寄付者・企業・団体を募る。
- ・寄付者(企業・団体)への報告とPRを継続する。
- ・寄付者・企業・団体のメリットをつくる。

社会課題として地域で取り組む

貧困や孤立は、その家庭だけの問題ではありません。地域の人々が社会課題と捉えていただき、自分事にしていただき、個人や地域企業にも事業活動を通じ、本事業に参加していただけるようにPRしています。

寄付プラン詳細

[北区繋がり広がるプロジェクトご寄付プラン一覧]

□ 3ヶ月プラン 200,000円/年
…30世帯70名の子ども達へ、年4回プレゼントを届け、見守ることができます。
□ 2ヶ月プラン 100,000円/年
…30世帯70名の子ども達へ、年2回プレゼントを届け、見守ることができます。
□ 1ヶ月プラン 50,000円/年
…30世帯70名の子ども達へ、年1回プレゼントを届け、見守ることができます。

※プレゼントの内容を指定していただくことも可能です。

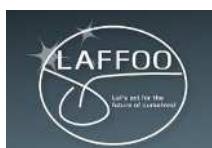
[リターン]

- 1) 北区繋がり広がるプロジェクトHPへ寄付者名・企業バナーを掲載
- 2) いんふぉの森の活動報告へ寄付者名・企業バナーを掲載
(7万5千部のポスティングを年間4回)
- 3) SNSでの定期掲載



[2024年度の寄付者]

・池田様 ・LAFFOO



第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組み、今後の協働事業に役立てるために行います。

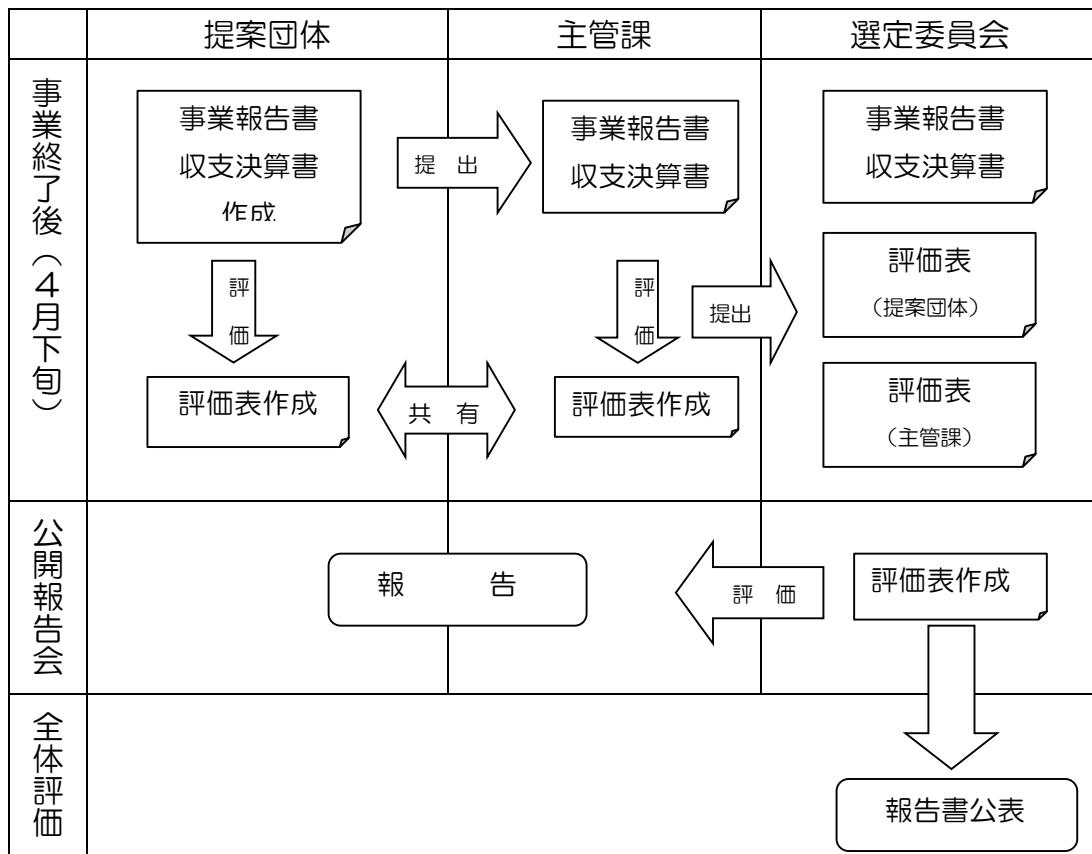
2. 事業の評価方法

協働事業の事業実施主体である団体と主管課がそれぞれ自己評価を行い、その内容を選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員会が評価し、その内容を公表します。

3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組み
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

4. 評価の流れ



5. 事業の実施主体による自己評価

(1) 北区繋がり広がるプロジェクト（アウトリーチ型支援事業）

【団体による自己評価】（一般社団法人 SHOIN）

① 計画段階での取組みについて

主管課との意見交換の中での気付きがあった。またアウトリーチミーティングなど事業を実施する上で現訪問員が所属する団体にも意見などを聞いて進めることができた。

② 事業の進め方について

定例会の他、メールや直接お会いしての話の中で、事業に対して意見交換できたと思っている。事業 PR でも北区ニュースをはじめ様々な PR できる機会やパンフレット配布場所を提供してくださった。次年度も定期的に PR に協力いただければ幸いです。またアウトリーチミーティングの PR では、町会掲示板・回覧板に案内することを弊団体が漏らしてしまいました。効果的な PR 方法だと思うので次年度以降は実施したいと思っている。また子ども食堂運営者などに訪問員になっていただいているが、報告書や領収書のご提出が遅くなってしまう団体様もいらっしゃる。民民連携しながら行う事業でもあるので、その点もスムーズになるように努めていく。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

協働することによる事業に対しての事業の信用性が増したと思っている。子ども未来課職員の皆さんも大変親身になって本事業に取り組んでください感謝している。

弊団体が作成のチラシの連絡先に、弊団体の名称・連絡先だけを記載しており、スクールソーシャルワーカーや子ども家庭支援センターとの協議の中で、協働していることが見えないといったご指摘を受けた。確かに必要な情報だと思うので、以降作成のチラシやパンフレットでは、北区子ども未来課の名称・電話番号も記載したいと考えている。

④ 協働事業の成果について

事業目的である「支援対象者と継続的に繋がり、信頼関係を構築しながら、必要であれば関係機関・団体の適切な支援につなぐ」といった点に成果があつたと感じているが、訪問員と支援対象者を十分に広げていけたかという点では不十分で、訪問員数・支援対象者数・月毎のプレゼント数は計画時を下回った。しかしながら、訪問員では、一般的ボランティアも現れてきている他、スクールソーシャルワーカーなどから支援対象者を繋いでいただくケースも出てきており、次年度に向けた土台になる活動はできたと感じている。

支援対象者や訪問員、アウトリーチミーティングではアンケートをとることもできた。

【主管課による自己評価】（子ども未来課）

① 計画段階での取組

主管課と団体の双方が納得のいくような事業計画作成のため、他部署の意見も参考にしながら団体と適宜話し合いを行い、作成することができた。

② 事業の進め方

子ども未来課で実施している事業で以前より関わりのある団体であったため、事業を進める中での意見交換の場や相談の機会を多く確保することができ、些細なことでも相談し合える関係を築くことができたと考えている。

区としての役割である広報面では、団体からの周知希望があった場合の協力のほか、子ども未来課所管のきたハピモバイルや子育て支援情報メール・LINE等での配信をご提案する等、広報を幅広く実施することができた。しかし、事業の性質的に、単純に広報をするだけで事業実績が上がるという事業ではないため、その点に難しさを感じている。

また、府内からは、チラシに主管課名が入っていないため、民間だけで実施していると勘違いされてしまうというご指摘があったため、今後作成するチラシ等については、主管課名を記載し、協働で事業を行っていることがわかる内容に改良する。

③ 協働事業の成果

支援が必要な家庭にも関わらず、行政に頼りたくない、自身で支援は必要ないと閉ざしてしまっている等のご家庭を、民間団体の力を借りることによって発見、見守りをすることことができたと考えている。

また、協働により、府内に本事業の周知をすることができ、行政からの支援が必要とまでは判断できなかったご家庭への訪問依頼を受けることで、行政では対応できないご家庭への見守り支援が実施できた。

④ 協働事業の成果

事業の内容を考慮すると難しい問題ではあるが、周知に力を入れても支援対象者や訪問員が集まりづらかったと感じる。（計画人数に達しなかった）

ただ、協働事業 1 年目での広報により、民間団体の横のつながりが広がってきていたため、今後訪問員が増えていくことを期待したい。今後も周知方法等に工夫を凝らし、行政だからこそできることを協力していきたい。

6. 選定委員会による評価（個々の選定委員のコメントの抜粋）

（1）北区繋がり広がるプロジェクトアウトリーチ型支援事業

① 計画段階での取組みについて

・生活に課題を抱えている家庭とアクセスすることは容易なことではないが、定期的に家庭を訪問することで信頼を得るためのプロセスを計画することができたのではないか。突発的な状況に対応するためのより現実的な準備が必要。

・計画初期の頃に比べてより現実的な事業に進化していると感じる。団体と所管課が意見交換を重ねてきた成果と思われる。

・訪問員の確保が、計画通りに行かなかった。結果的に 448,922 円の返還金が生じてしまったことは残念。

・当該提案事業は、区民ニーズや区の課題を捉えたものであったと思うが、当初より懸念事項となっていた手段の目的化やアウトリーチャーの育成計画等が事業実施後にも十分に整理されていない様な印象を受けた。

・子ども食堂からアウトリーチ事業の実施は、訪問員の確保や対象家庭へのアプローチなど難しい点も多く、問題解決には主管課の意見やアドバイスを参考に計画し、実施していることを評価する。

・計画時よりも支援者や訪問員の数が下回ったのは残念だが、子ども家庭支援センターとスクールソーシャルワーカーとの連携強化や、町会や民生委員への働きかけなど、今回みえてきた成果と課題を活かして、次年度以降も取り組んでいただきたいと思う。

② 事業の進め方について

・訪問者がどのような状況に対応しているかのケーススタディを積極的に行い、対応力を高めることが求められる。現在までのところ大きなアクシデントは確認されていないようだが、ヒヤリハット的な情報の共有を常に見えるようなシステムを検討していただきたい。

・訪問員数、支援数の増大への期待も理解できるが、訪問員の質の向上、システムの安全性・専門性の向上、支援先のケースワークや支援方法の分析など現状での課題も多いと思われ、足元の拡充を一義的に考えるべきである。

- ・訪問員の業務体制やスーパーバイズの仕組みなどの確立がまだ出来ていないと思われる。早急な整備を期待したい。
- ・アウトリーチは、支援者・専門家サイドの活動であり、当事者主体のものではないことに留意してライツ・ベースドの活動を目指してもらいたい。
- ・本事業を区と協働で取り組む意義は、事業の信頼性の向上と安全性の担保にあると思う。協働することで得られる効果を最大限に発揮できるように、意識して取り組んでいただければと思う。
- ・区との協力や他団体との協力体制は、一定程度実現できたと感じるが、当該事業の根幹となるアウトリーチャーの育成ならびにアウトリーチが十分に実施できたとは言い難い。
- ・子ども食堂は多くの地域や団体で実施しているが、アウトリーチに繋げていくことはまだ他でやっていない事業で、行政の指導やPRの方法などの意見交換を密にするなど、今後も大いに取り入れて進めてほしいと思う。
- ・ヤングケアラーの問題も同様だが意外と近所の人、町会の役員も気がつかないケースが多い。
- ・アウトリーチを区民の方に広く知っていただきとともに、アウトリーチャーの負担やリスクを軽減するための効果的なしくみづくりを、区と連携しながら取り組んでいただきたいと思う。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

- ・行政と協働することによって訪問を必要としている家庭とのマッチングが可能になっていると考えられる。また、公助が必要と判断した際にはすぐに行行政が制度的に対応することができるのではないか。
- ・計画初期の問題であった家庭支援センターとの連携の構築が依然として必要と思われる。
- ・幾つかの課題はあるものの、区と協働で事業を実施できたということ自体は大変有意義であったと思う。
- ・貴団体は行政の支援が有り協働で実施の事業であるから、広報に関することなどアドバイスを求めて、今後も事業を進めてほしいと思う。

- ・本事業は、行政と協働で実施することで、支援を必要とする方への重層的な取組みが可能になると思います。そのためにも、引き続き、相互理解と信頼関係の構築に向け尽力いただきたいと思う。

④ 協働事業の成果について

- ・初年度ということもあり、ケースがまだ十分とは言えないが、課題解決に結びついた事例などを積み重ねることにより、事業の必要性を認知することに結びつくものと考えられる。
- ・計画初期の頃から確実に関係性が進化しているように見える。団体と所管課の努力に敬意を表す。
- ・訪問員と支援対象者を十分に広げるところまでは至らなかったかもしれないが、息長く取り組んで頂きたいと思う。
- ・今後、手段が目的化しない為には、アウトリーチによって掘り起こしたニーズや要支援家庭・要支援児童をどの様な支援に結びつけたのかや見守り支援の期間やモニタリングの目標項目等を統一指標として見える化する仕組みが必要だと思う。
- ・支援が必要と思われる家庭は、孤立して閉鎖的になっていることが多く、そんな家庭への訪問員の確保は難しいことが多いと思うが、主管課の指導を参考に取り入れて、民間だから出来る強みを發揮し、アウトリーチ事業を頑張ってほしいと思う。
- ・危機管理に課題がある。（アウトリーチ報告のみでは不安がある）
- ・困難なテーマではあるが、社会から孤立し悩んでいる方が増加するなか、行政だけでは目の届かない子育て家庭のサポートは必要であると考える。初年度に得た成果と課題を関係者間で共有しながら、次のステップに向け、前向きに取り組んでいただきたいと思う。

⑤ 将来性

- ・訪問者を育成することにより、地域と家庭のコミュニケーションを活発化してさまざまな環境による家庭の孤立を解消することにつながることが期待される。
- ・社会課題の解決モデルとして他地域をリードする活動発展を期待する。

- ・本事業は、なかなか成果の見えにくいタイプの事業だと思うが、区民の生活を支えるために不可欠な取り組みだと思う。長く続けていくためにも、本事業の成果を示すことが大切だと思うので、主管課の皆様もその点を見据えながら取り組んでいただければと思う。
- ・アウトリーチャーの数を増やすことやアウトリーチの数を増やすことではなく、必要な支援を必要な人に届けるという当初の目的を忘れずに、引き継ぎ区と協力をしながら頑張って頂きたい。
- ・協働で取り組む重要性を利用し活用することにより、今後も期待できると思うし可能性は大いにあると思うので、この事業の先駆者であってほしいと思う。
- ・今後ますます必要性が増えてくることと思う。当会の活動には敬意を表したい。（子ども食堂、フードパントリー等）

令和6年度 北区政策提案協働事業報告書

令和7年11月7日発行

刊行物登録番号
7-1-063

東京都北区地域振興部地域振興課
発行 東京都北区王子一丁目11番1号
電話 5390-0093 (ダイヤルイン)